

シンポジウムS2-6

本学の現状と課題から考える次世代教育について

桜沢貴俊¹⁾ 大久保 淳¹⁾ 宮本聡子¹⁾梅田晃治¹⁾ 峯岸香奈子¹⁾ 千川祐樹¹⁾藤巻愛子¹⁾ 星野 傑²⁾ 松村恵津子²⁾大原敏之²⁾ 柳下和慶²⁾

- | | | |
|----|------------|--------|
| 1) | 東京医科歯科大学病院 | MEセンター |
| 2) | 東京医科歯科大学病院 | 高気圧治療部 |

【新人教育における現状と課題】

当院には臨床工学技士(CE)が40名在籍しており、その内7名が高気圧酸素治療(HBO₂)業務に従事している。担当者は全員他部署と兼任であるため、平日日勤帯は2名がローテーションで担当し、夜間・休日の緊急対応は1名のオンコール体制をとっている。新人教育については、研修期間を1~2週間設け、業務開始1カ月程度でオンコール業務の従事を目指している。期間中は新人を含む3名体制とし、On the Job Trainingを中心に行っている。HBO₂において習得が必要な業務は、装置の操作や点検、治療スケジュールを含めた患者管理など多岐にわたっており、特に緊急時のための入室訓練は繰り返し行う必要がある。一方、指導者の業務負担の増加や、指導に複数名が関与するため教育内容に偏重をきたす可能性があることなどが、問題点として挙げられる。そこで当院では、基礎内容をまとめた教材と業務マニュアルを作成し、Off the Job Trainingとして利用している。しかし、実臨床においては、短期間で、かつ限られた人員の中で多くの業務の習得が必要となるため、基礎知識については、十分な教育時間を割くことが難しい現状にあり、就業前に基礎知識を習得してくることが望まれる。また、患者への治療説明は、経験年数によって内容に差が生じないように、治療tableに応じた動画を作成し活用しているが、部分的な業務の自動化は、全体像の喪失やモチベーションおよびスキルの低下が懸念される。そのため、当院では、電子カルテや症状に関するアンケート、経皮ガス分圧測定装置などのモニタリング機器から得られた情報のデータベースを基に、教育の一貫として臨床研究も積極的に行うようにしている。

る。エビデンスに基づく医療の実践および今後のHBO₂の普及や発展のためには、CEの立場からの臨床研究も必要不可欠であり、新人のみならず次世代を担うCEに必要なスキルであるといえる。

【臨床実習における現状と課題】

日本臨床工学技士会の臨床実習指導ガイドラインでは、高気圧治療の適応疾患など6項目について理解することが臨床実習の到達目標に設定されている¹⁾。一方、当院では、CE業務全般の研修を行う通常実習とHBO₂実習のみの2種の実習形態の受け入れを行っているが、HBO₂研修日数はそれぞれ3日と1日と短期間であるため、実習期間内で全てを理解するのは困難である。臨床実習のあり方としては、臨床への参加型実習の実施が推進されており²⁾、見学中心から体験型実習に変更することで、HBO₂に興味を持つ学生の割合が増加するとされている³⁾。また、CE養成校におけるHBO₂関連の講義は、呼吸療法の一部として組み込まれる場合が多く、履修時間が少ない⁴⁾。さらに、HBO₂装置がない、業務経験を有する教員がいないなどの理由から68%の教育施設で学内実習を行っていない⁴⁾。HBO₂教育の現状を踏まえると、臨床実習は体験型実習中心が望ましいと考えられ、統一した基礎教育をCE養成校内で事前に行うことを切に願う。

【まとめ】

基礎知識の習得の機会が少ない現状においては、研修施設と教育施設が各々の役割について認識を共有し、卒前卒後の一貫した教育システムを構築する必要があると考える。また、臨床研究は、新人教育の観点のみならず、次世代を担うCEに必要なスキルであり、卒前から臨床研究に関する教育が盛り込まれることが望まれる。

引用文献

- 1) 公益社団法人 日本臨床工学技士会：臨床実習指導ガイドライン改訂版(平成25年度)
- 2) 厚生労働省：臨床工学技士学校養成所カリキュラム等改善検討会報告書(令和3年3月25日)
- 3) 濱田倫朗，他：臨床工学技士養成過程における高気圧酸素治療教育の課題—講義および臨床実習後のアンケートから—。日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016；51(4)：282
- 4) 廣瀬 稔，他：臨床工学技士養成課程における高気圧酸素療法に関する教育の現状と課題。日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2017；52(3)：117-121